

新科目『公共』の存在意義とその価値を活かす指導を考える

～改定された学習指導要領の理念を活かした学習指導②～

法政大学小金井キャンパス兼任講師 藤牧 朗

要旨

この世の中を生きていくのに、必須な教科の上位3科目を選ぶとすれば、家庭科、保健、公民科であると考えている。今回、その中で、学習指導要領において、新規科目として登場した「公共」を担当することとなった。この科目は、今回の学習指導要領の一つの特徴を示す科目といえよう¹。従来、公民科にあった「現代社会」の変形したものともみえるが、そこには学ぶ強い理念と「必修」とした意図が感じられる。社会の変化に伴い、必要とされる概念や知識が変化するこの社会において、通念上主要三教科（国語、数学、英語）といわれるものに含まれていないことを学び続けるためには、「学ぶ愉しさ」を感じるとともに自分自身の「学習方略」を身につけることが必要である。

そこで、自分として、この科目の新設の意義を捉えて進めてきた授業及び試験や評価について、生徒の反応を中心にここでまとめて記し、その方向を示そうと試みた。

Abstract

If I had to choose the top three essential subjects for living in this world, I would choose home economics, health, and civics. Among these subjects, I am now in charge of "Public Affairs," which is a new subject in the Courses of Study. Although this subject can be seen as a variant of "Contemporary Society," which was previously included in Civics, I feel that there is a strong philosophy and intention in making it a "must" subject. In this society, where concepts and knowledge are changing as society changes, it is necessary to feel the "pleasure of learning" and to develop one's own "learning strategy" in order to continue learning things that are not included in the three main subjects.

Therefore, I have attempted to summarize and describe

here the lessons, examinations, and evaluations that I have conducted in light of the significance of the new establishment of this subject, focusing on the students' reactions, in order to show the direction of the subject.

0. 初めに

(1) 「学び」へ向かう前提

“勉強はさせない”、これが学びを継続させるための条件である。「学びはたのしければ続かない」と考えている。日本において、特に高校生は、世界からみると、「できるのに学ぶのを嫌うようになってしまっている」傾向がみられる。これは自己肯定感・自己効力感の低下につながっていると考えられる。さらに社会の変化の速さは大きくなり、同じこと（業務）をずっと続けて生きていくことは難しくなっている。そのため、学び続けること、自分自身を常に向上させていくことが求められている。つまり、一生学び続けることが必要ということである。そして、学び続けるためには、学ぶたのしさと自分自身の学び方（学習方略）が肝要であるが、日本の子どもたちは、義務教育段階において、既に自律学習に対する自信が低いことが国際調査で表れている²。

(2) 継続した学びを実現する方法

学びが継続するためには、「たのしさ」「自己効力（＝自分が役に立っている）感」をもてればよい。さらに、学校において、最も多くの時間を過ごすことになっているのは、もちろん授業時間である。よって、その授業時間の中において、この「たのしさ」を感じ「自己効力感」をもてるように工夫すればよいことになる。多くの児童生徒たちにおいて、その二つを満たす方法の一つとして、獲得型教育³における演劇的手法が挙げられる。これをほぼ毎授業の中に入れることによって、生徒が生き生きとし、授業時間が活性化する。この中には、多くの人の前で「他人（他のモノ）になっ

1 この詳細の点に関しては、学習指導要領及びその解説、また学習指導要領作成に至る中央教育審議会の教育課程部会等の議論（議事録等）をご覧いただきたい。

2 こちらについては、文部科学省ホームページより「OECD 生徒の学習到達度調査 2022 年調査（PISA2022）のポイント」を参照されたい。

3 獲得型教育は故渡部淳先生が獲得型教育研究会において、自律的市民を育てるという目的をもった『主体的・対話的で深い学び』を促す学びの方法である。これについての詳細は、参考文献を参考されたい。

で発言など表現する（なりきりプレゼンテーションのかたちとなる）」ことが含まれている。そこで、この方法をもちいることで、進んで一歩前に出られる人、国際的にも活躍できる自己表現できる人物を育てることができると期待される。

1. 社会科、地理歴史・公民科担当として

(1) 新科目「公共」

この科目は、もともと求められていることが広く、ある意味「責任の重い」科目であると感じる。例えば、社会に生きる市民として社会に出るにあたって「社会科」として必要な知識を提供するとともに、これからの社会や国家を考える科目、また、小中学校で学んできた「道徳」の延長線上にある「社会で生きていくための良識を考える科目」でもあると捉えている。

さらに、その「考える」根幹としての「さまざまな考え方」の提示をする「哲学基礎」としての役割も担っている。つまり、考える「たのしさ」をさえ「考える」科目でもあると考えられるのである。

(2) 生徒たちの「公民」への思い

新科目「公共」は公民科の一つである。しかし、いままでも中学生に公民分野について尋ねてきたところでは、「地理や歴史は好きだけれども公民は…」と言葉を濁されることが多い。「地理や歴史は好きだけれども公民はよくわからない」「地理や歴史はおもしろいけれど公民はつまらない」「地理や歴史は興味があるけれど、公民は眠くなる」…などという声をしばしば聞いてきた。実際、過去の公民の授業においては教室の三分の一程度の生徒が眠っているような授業を観てきた。また、高校生からは、「受験に関係（必要）ない」「受験科目の勉強が忙しくて（学ぶ）時間がない」「そもそもなんでこの科目をやる必要があるのかわからない」という声も聴いてきた。このようなことを言わせて（思わせて）しまうことも、我々教員側の意識や姿勢ひいては授業の設計にも原因があるものと考えられる⁴。

そのため、教員側が特別な意識をしていかないと（＝従来型『受験を目指した知識注入型授業』を行っていくと）生徒たちは主体的な学びが進まないと感じてきた。そこで、特に、中学段階において公民分野を担当するときは、『疑似的な現実社会の場を教室内に形成する』ことにより「学ぶ価値があるもの」という意識をもつことを促す学習活動を行うようにした。そこ

で用いたのが「獲得型教育」でいうところの演劇的手法である。まずは、そこに至るまでの経緯を述べたい。

2. 以前の勤務校における社会科、公民科

(1) 以前の勤務校における実践①

以前勤務していた中高一貫校の私立校において、中学生の社会科や高等学校の地理・歴史科および公民科を担当していた。特に、自分には、もともと専門と考えていない（また、大学受験科目として利用していなかった）公民系分野及び公民系科目の担当となることが多かった。

専任教諭として、初めてこの学校で中学3年生社会科を担当させていただいたときの担当（中学3年生の学級担任を兼ねる）学年は、問題を抱えた学年であった。そこで、担任として他の学校（公立中学校）での経験を活かし、落ち着いた学級（及び学年）づくりを行うとともに、教科学習に向かう姿勢を形成しようと試みた（ここにおいて、『教科学習に向かう姿勢を整えることにより落ち着いた学級づくりを目指す』という方法もあるが、現場の状況を鑑みて、ここにおいては上記のような二つのことを並行して進めていく方法が適切であると判断した）。学級の安定化に目標とする期限をもって進めたところ、ほぼ達成することができた。教科指導の方は、「公民」に対する固定的な考えと別のクラス（教科主任担当）と合わせて進めるということから毎授業の「一問一答型小テスト」（ここから定期考査の問題としてもでる）を行うことが求められていたので、知識注入型授業を行っていたが、授業の様子をみていて、どう観ても生徒がのってきいていないことが分かった（寝ている、他のことをやっている）。

そこで、「裁判所」を学ぶ項目のところで、模擬裁判を行う演劇的手法を用いた（ロールプレイ）授業を実施した。そうするとどうだろうか、今まで、全く授業に参加していなかった生徒も含めて全員が与えられた役を演じ、しかも各人それぞれが自分なりに工夫を凝らして入っていた。つまり、授業の場にいた全員が、「自分で考える」学びを行ったと考えられる。このときは、生徒たちは、「またやりたい」ということを言ってくれたが、この年度中は別の教員との調整がつけられなかったため、次年度以降実施することとした。ここから、どのような教科科目を担当するときも、どの学年を担当するときも、「獲得型教育」における演劇的手法にあるさまざまな手法を、その学齢や教科（及

4 東京大学文科類を受験するときに実質上公民科目が利用できないということも少なからず影響があることがうかがえる。

び科目)に応じて、授業の中に取り入れていくこととした。

また、別の学年で、教科担当として持ち上がって高校3年生「政治・経済」を担当したときには、生徒から「自分たちに授業をやらせてほしい」という意見が多数あり、条件付き毎授業交替で授業を進めてもらった。それまでに、さまざまな授業方法を展開してきたので、生徒各々がやりやすいように学びやすいように授業を展開してくれた。その中には、従来型の板書中心の授業を行うこともあれば、ディベート型の授業を行う生徒、ジグソー法を用いる生徒もいて、生徒それ

ぞれが飽きることなく学ぶことができたようであった。そして、定期テストは、アクティブラーニング型授業に適応した試験問題として、原則的に、全問文章で回答する形式とした。

このような学びを続けた結果として、担当した卒業生平均において、センターテストにおいても、自分が担当してきた科目の全てにおいて、校内の他の科目の平均点上位を占めるとともに全国平均を上回ることができた。このことは、アクティブラーニング型授業が、「教え込み型授業」を上回る学力向上を促す可能性を示唆しているといえよう。

教科	国語	数学 I・A	数学 II・B	英語	リスニング	世界史 B	日本史 B	地理 B	倫理
校内平均	108	48.56	36.19	103.25	29.64	65.44	59	61	62
全国平均	129.39	55.27	47.92	112.43	30.81	67.25	65.55	60.1	51.84
差	-21.39	-6.71	-11.73	-9.18	-1.17	-1.81	-6.55	0.9	10.16
教科	現代社会	倫理・政経	物理基礎	化学基礎	生物基礎	地学基礎	物理	化学	生物
校内平均	57.25	65	36	14	22.5	21.5	46	45.29	59.5
全国平均	54.53	60.5	34.37	26.77	27.58	33.9	61.7	54.48	63.62
差	2.72	4.5	1.63	-12.77	-5.08	-12.4	-15.7	-9.19	-4.12

(2016年センターテスト結果)

【表1】 センターテスト (当時) 結果 (当時の勤務校)

(2) 以前の勤務校における実践② (中学3年生)

中高一貫校であったため、中学3年生公民から高校3年生の公民科各科目を担当する機会が多くなった。前年度、高校3年生まで担当した学年の後、さらに、中学3年生の社会科(歴史分野+公民分野)を担当することとなったときに、「この学年は従来よりも学習に向かう姿勢ができていない」という内容のことを聞いていたため、担当当初の授業において生徒にアンケートをとってみた。その内容は、「どのような授業をして欲しいか」というとても漠然としたものであった。なぜこのような漠然とした記述形式の問いにしたかということ、この方が自由に書けると同時に、生徒の表現力その他の学習に関するさまざまな意識や力が観られるのではないかと考えたからであった。

このアンケートの結果として、出席者のうち一人を除いてすべての生徒から「自分が話せる授業がよい」という内容の回答が出てきた。男子が多く、外から聞いているとどちらかというと授業内容に対しては消極的な生徒が極めて多い様子だったため、このアンケート結果には驚きを感じるとともに、この結果を重要項目の一つであると考えた。そこで、アクティブ・ラーニング(後の「主体的・対話的で深い学び」)のさまざまな方法を用いた授業を展開することになった。原則として「教えて考えさせる授業」(市川伸一氏)の型を利用し、そこにKP法(紙芝居プレゼンテーショ

ン法)や演劇的手法を入れていく方式を使って、時間的余裕をつくり、授業時間を活き活きと活発なものにする。それとともに、グループワークで「問いをつくり」「考え合い」「教え合う」雰囲気を整え、生徒自身が「いっしょに学ぶことの価値」や「協働することの大切さ」を感じ取れるようにすることに重点を置いて、授業時間を生徒同士が自ら積極的に学び合う場となるように意識してきた。

その結果、この学年(中学3年)で進めている途中で、授業に関する感想を聞いたところ以下のような回答が得られた。

生徒の「感想」(一部掲載)

・Aさん(女子)

…たくさん発言することができました。(中略)実際にテスト前とかに暗記したりすることもなかったのに、時間が経っても歴史などの知っていることが増えていて、家族に説明することまでできて驚きました。

・Bさん(男子)

…自分の考えなどを述べる授業を続けて欲しいと思います。今後も自分の考えを述べる試験を創って欲しいと思いました。理由は、自分の考えを述べることは、将来社会に役に立つと思うからです。

3. 現勤務校（公立中等教育学校）における 中学社会科

(1) 2年次（中学2年生）社会科実践

昨年度、周囲の都合により、年度途中で（後期から）中学2年生の社会科（地理分野と歴史分野を交互に学習するスタイル）の担当⁵となった。今回は、他の先生と二クラスずつ授業担当することとなり、定期試験問題は問題形式ごとに分けて一部の問題を作成（及び採点）することとなった。そこで、文で回答する問題とその考え方を生徒に提示した（採点基準ともなる）ルーブリックを示した。これは、生徒からみると、解答の仕方と同時に、考え方や学び方を示す重要な役割をもつものであるといえる。その目的を達成するため、生徒にはできるだけ試験前に早い時期にルーブリックを示すよう努めた。

現勤務校の当該学年においては、学びに対する意欲が高い生徒がほとんどで、教員である自分としては、その意欲にどのように応えていくか、また、その意欲を活かしてどのような学びの場を創っていくのが課題となると考えられた。担当となるとわかったときから、前任者の授業を参観させていただき、生徒の様子を掴んで授業の進め方を考え、授業担当として臨むことができたことは、自分自身と生徒にとって幸運なことであった。

はじめの授業のときに、授業の展開の仕方が大きく変わることについて時間をかけて説明した。前に担当していた教員が、大きな画面に画像資料を示しながらとても詳しく説明する授業を行っていた。そこで、形態が大きく変化し、「生徒中心の生徒による生徒の学び」となることを説明した。具体的に言うと、教科書内容に関しては、こちらから説明するのではなく、自分で読んで学ぶものであると伝えた。そして、グループワークを用いて生徒からの「問い」を求める形とした。

生徒には、まず授業の進め方についての意見を聞こうと思っていたが、すでに「対話的協働型授業」となることは知っていた（覚悟していた＝期待していた）ということなので、そのまま授業に入ることができた。そして、生徒とのやり取り（連絡や提出物）はロイロ・ノートを用いた。授業中での「問い」や疑問・質問、ノートまとめに関してもロイロ・ノートでの提出とした。

【授業1コマ（55分）の基本的な進め方】

①ホット・シーティング（主に前回の授業内容の発展的復習、理解深化）

↓

②きょう学ぶ項目（毎時原則教科書で2ページ）を読む
む→個人で「問い」を考える

↓

③グループ内で「問い」の出し合い→解答し合う（教え合う）→「問い」の精選

↓

④出た「問い」を教師がいっしょに考え回答しながら本日の授業内容を説明する

↓

⑤生徒各人が小項目ごとにまとめる（＝パソコン上でまとめロイロ・ノートに提出）

↓

⑥リフレクション（自己評価及び本日の感想）…フォーマットに記入提出

(2) 2年次の授業に対する感想、意見

年度終了後に受け取った生徒からの感想、意見の一部を以下に掲載する。（なお、一部文字修正及び省略がある。）

-
- ・ものごとの本質にせまる授業で社会を暗記する教科書から変えてくださいました。かっぱかわいいです。ホットシーティング⁶は楽しかったし、演劇的指導で楽しく学び、深めることができました。
 - ・最初はホットシーティングに戸惑いましたが、会話が面白くて新鮮でした。
 - ・ホットシーティングでいろいろ考えること、おもしろかったです。パソコンでまとめることでしっかり覚えられました。
 - ・たくさん話し合う時間があって、内容を深められたり、先生の話の聞いたりするのがおもしろかったです。また、いろいろな話聞かせてください。
 - ・半年間ありがとうございました。教科書をじっくり読んで、自分なりにまとめるのはすごくたのしく、とてもためになったと思いました。また、先生は色々な経験を持っていてエピソードを聞くのがとてもおもしろかったです。
 - ・授業がとても楽しかったです。特に、自分の意見を考えるところが良かったです。
 - ・半年間社会を教えて下さりありがとうございました。

5 この年度当初は、4年次（高校1年相当）物理基礎を中心とした理科担当であった。

6 ホット・シーティングとは演劇的手法の一つで、基本的には一人の人が前に出て、他の人の質問を受ける形をとる。藤牧は、理解深化（発展的復習）として利用しているが、授業へ向けてのアイスブレイクとしてのほたらきも担っていると捉えられる。

- た。私は今まで、無理やり暗記だけさせられた経験などから、「社会は暗記するだけでつまらない」と思い嫌いでした。でも先生の指導を聞いていたら社会を面白いと思えるようになり、苦手意識がなくなりました。
- ・ クロムを使って生徒主体で取り組む授業はとても分かりやすく、班で話し合うのはとても楽しかったです。またご指導いただける機会があったらよろしく願います。
 - ・ 先生のグループワークやホットシーティングは楽しく、考えが深められてとても勉強になりました。特に、グループで劇を創るという授業ではより考えが深まり、普段できないようなことができてとてもおもしろかったです。
 - ・ これまでの社会の授業でやったことのない方法を使っていて、毎回驚いていました。これからもよろしく願います。
 - ・ 今までの社会科の授業は書いたり覚えたりすることが中心でしたが、先生の授業は友達と話し合っただけで深め合うことが中心で、とても新鮮でした。また、ホットシーティングや演劇で楽しく学ぶことができました。
 - ・ 先生はALのプロなんだと本当に実感しました。社会は自分の中の「理解」になりにくいけれど、このやり方だと少し近づく感じがしました。たまに人間的な話もあってためになります。今後とも人の話を聞くことに気をつけたいです。
 - ・ いつもとてもおもしろい授業をして頂きありがとうございました。先生のおかげで社会がもっと好きになりました。
 - ・ Kappa と Raion が可愛かったです。最推しはタラピヨです！ホットシーティングは学習の刺激になって楽しかったです。
 - ・ 先生は、「本当の歴史や地理」を深く分かりやすく教えてくださいるので、とても面白かったです！特に私は歴史が好きでした。来年も何かの教科で教えて欲しいです。
 - ・ ルーブリックの形式でのテストは、自分の得意な分野をさらに得意にしようという意欲を大きくしてくれました。
 - ・ 「教科書を完全に信じてはならない」という藤牧先生の言葉は深く考えさせるもので、いろいろ調べてしまったという思い出がありま主。先生の授業はとてもユニークで楽しかったです。
 - ・ 藤牧先生は一番癖が強い先生で、かつとてもためになる授業でおもしろかったです！歴史人物やものになりきるのも楽しくて、とても良い経験が得られました！
 - ・ 自分でまとめる授業はとても身になりました。これからも続けていこうと思います。
 - ・ 演劇的手法が楽しかったです。またテストの文章回答が面白かったです。
 - ・ アクティブラーニングを取り入れた授業が新鮮で、教え合うことが学びにつながりました。
 - ・ 先生の授業の仕方は効率的で、覚えやすかったです。また、社会のことを考えるきっかけになりました。
 - ・ 他の人と意見を言い合うといった活動によって、自分の理解が深まりました。また、ちょっとした劇をやったのもとても楽しかったです。
 - ・ 今までの社会の授業では言われたことを覚えるだけででしたが、藤牧先生の授業は一つ一つのこと「なぜなんだろう」と考えながら授業を受けることができました。また、社会を教えていただく機会があったらよろしく願います。
 - ・ まとめることと発表が中心の授業で内容がとても頭に入ってきました。劇が特に楽しかったです。苦手な社会も好きになりました。
 - ・ いつも違うスカーフとぬいぐるみを見るのが楽しかったです！例のかっぱはかっぱえびせんのですか？
 - ・ 社会は暗記ものとばかり思っていたけれど、先生の授業のおかげでそうでないと気付きました。ホットシーティング楽しかったです。これからもたのしい授業をしていてください。
 - ・ ホットシーティングをしたり、劇をしたりする授業は新鮮でとても楽しかったです。教えていただけて本当に良かったです。
 - ・ 授業時間はそこそこ多いはずなのに、なぜか短く感じるほど授業がたのしく感じた。これまでの授業スタイルとは大きく異なっていて新鮮でした。このまま世界地理とかの方もあったら良かったと思っています。
 - ・ 学校の先生という概念をぶちこわしているあなたはとてもかっこよかったです。おもしろく独創的な授業をありがとう。
 - ・ 先生の授業はホットシーティングなど多くの工夫があり、楽しく深く学ぶことができました。

4. 今年度の4年次(高等学校1年生相当)「公共」の授業展開

(1) 「公共」のこれまでの学びを概観する

教科書及び学習指導要領から、以下のようなことを中心に進めていくこととした。

- ①「社会における人としての在り方生き方を考える方法」を考える。
- ②代表的な「哲人」の「考え方」を知り参考にして自分の「考え方」を考える。
- ③身につけた「考え方」を適用して、以下の内容に関して「民主主義社会」を考える。
 - a. 政治 b. 司法 c. 経済
 - d. 職業と労働 e. 国際社会

特に、中学段階では詳細に学ぶ内容が少ないため生徒にとって捉えがたく、かつ私たちの生活に深く関わっていく「経済」「職業と労働」、さらに私たちの生活と切っても切り離すことのできなくなった「国際社会」の項目については、対話的にいっしょに考えていくことが肝要であると考えられる。従来方法では解決できない課題、すなわち関係当事者同士の利害が対立している問題や地球規模の大きな問題などが山積みとなっている現代社会において、いかに解決していくのか、解決に至らないまでも乗り越えていくのか、生き残っていくのか、今まで知られているやり方で、自分一人では解決できない課題について、周りの人、特に多様性をもった人たちとさまざまな考え方を出し合って、それぞれの課題や問題に挑戦していくことが求められている。そこで、それに応えられる姿勢を養うこともこの中等教育（中学生及び高校生）段階で最も大切なことの一つであると考えられる。

そこで、特に、この変化の激しい現代社会において、一人の独立した自律した市民として生きていくために重要な科目と捉え、生徒ひとり一人が大学受験主要科目とは異なる意味でも学ぶ価値身につける価値を

感じられるような授業を創っていくことが求められている。そこを強く意識して、授業を「学ぶ場」の中心として、グループワークを中心に、生徒が主体的に進めることのできる対話的で協働的な学びの場を創るよう努めた。

(2) 通常の授業実践 (初期)

進度としては、通常予定されているものと同様、一コマの授業（原則 55 分）の中で、教科書でいうところの 1 項目（または 2 項目）を進めた。その進め方は以下の通りである。

【授業の基本的な進め方】(画像 2)

- ①ホット・シーティング (先哲の一人になりきってやり取りをする)
- ↓
- ②きょう学ぶ「項目」について議論 (原則的に 4 人グループで)
- ↓
- ③教科書の各小項目 (3 項目程度) をロイロ・ノートにまとめる→提出
- ↓
- ④小項目毎にグループで説明し合う。このとき、左右の欄外の記述内容も注意する。
- ↓
- ⑤リフレクション=自己評価及び本日の感想など (ロイロ・ノートに表現→提出)

<p>1 人権宣言 基本的人権に関する差別の禁止 これを基礎に条約化された国際人権規約 差別撤廃条約 子どもの権利条約なども採択</p> <p>性の権利保障 世界的に大きな課題 差別撤廃条約の採択 男女雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法採択 ポジティブ・アクション推進など</p> <p>障害者の権利保障 障害者差別解消法 LGBTなども問題視 日本と外国人の人権保障やヘイトスピーチも</p> <p>3年6月13日 14:17</p>	<p>人権保障の広がり</p> <p>人権保障は、国内の問題としてはじまがたが、今日では、国境をこえて守られるべきものとなっている。</p> <p>世界人権宣言は、基本的人権にかかわる差別の禁止を定めた。また、この内容を基礎にして条約化された国際人権規約も様々な権利を定めている。</p> <p>人権差別撤廃条約・子どもの権利条約などの人権条約も採択されてきた。</p> <p>少数派の人々の人権が保障されず、不当な取り扱ひ・差別を受けるようでは、人間の尊厳が脅かされ、私たちが協働して社会を作っていくことは困難</p> <p>2023年6月13日 14:17</p>	<p>国際人権条約はさまざまな権利を定めている。 人権差別撤廃条約や子どもの権利条約などの人権条約も採択されてきた。</p> <p>女性の権利保障は20世紀後半以降、世界的に大きな課題となり、女子差別撤廃条約の採択をきっかけに日本でも男女雇用機会均等法や男女共同参画社会基本法が採択された。</p> <p>女性の社会参画の機会を積極的に提供するポジティブ・アクションを推進する動きも障害者の権利も、障害者の権利条約を機に日本ではLGBTなどの権利保障も課題に。近年では、ヘイトスピーチや在外国人の地方参政権などの</p> <p>2023年6月13日 14:18</p>	<p>基本的人権に関する差別の禁止 これを基礎に条約化された国際人権規約 差別撤廃条約 子どもの権利条約なども採択</p> <p>女子差別撤廃条約をきっかけに日本でも男女雇用機会均等法、参画社会基本法が制定された。</p> <p>ポジティブ・アクション…女性の社会参画の機会を積極的に推進すること。</p> <p>障がい者の権利条約…日本の障がい者差別解消法が制定されて近年では、LGBTなどの性的少数者の権利保障も話題となっ</p> <p>2023年6月13日 14:19</p>
<p>国境をこえて守られるべきものとなっている。</p> <p>規定: 国境、人種、民族、言語、性別、思想、心身、宗教などによる差別を禁止 趣旨: 世界人権宣言を基礎とし、多くの権利を定めている。</p> <p>国際条約、子供の権利条約などの条約も 権利保障は20世紀後半以降世界的に注目される</p> <p>国際条約の採択 男女雇用機会均等法、参画社会基本法 ポジティブ・アクションを推進する動き</p> <p>差別撤廃法 差別撤廃法 LGBTなどの権利保障 外国人の権利保障 etc...</p> <p>3年6月13日 14:19</p>	<p>国際人権宣言: 基本的人権にかかわる差別の禁止 →国際人権規約(1966)・人権差別撤廃条約(1965)・子どもの権利条約(1989)など</p> <p>女性の権利保障 1979 女子差別撤廃条約 1995 男女雇用機会均等法 (日本) 1999 男女共同参画社会基本法 (日本) ポジティブ・アクション (積極的差正措置) を求める</p> <p>障害者 2006 障害者の権利条約 2013 障害者差別解消法</p> <p>2023年6月13日 14:19</p>	<p>【人権保障の広がり】 人権保障は国境をこえて守られるべき →国際人権規約、人権差別撤廃条約、子どもの権利条約</p> <p>女性の権利保障の課題 →女子差別撤廃条約、男女雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法 ポジティブ・アクション …人種、ジェンダーの差別解消に向けた差正措置</p> <p>障害者の権利保障 →障害者の権利条約、障害者差別解消法</p> <p>LGBTなどの権利保障、外国人の権利保障etc...</p> <p>2023年6月13日 14:19</p>	<p>人権保障の広がり 世界人権宣言 「国境、人種、民族、言語、性別、思想、宗教など人権に関する差別の禁止」 →国際人権規約</p> <p>・ 人権差別撤廃条約、子どもの権利条約の採択 ・ 女子差別撤廃条約 →男女雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法、ポジティブ・アクションなど ※ポジティブ・アクション…人種、性別差別的差正</p> <p>・ 障害者の権利条約→障害者差別解消法 (合理的配慮を)</p> <p>2023年6月13日 14:20</p>
		<p>国籍、人種、言語、性別などに対する差別を禁止し国際人権規約も様々な権利を定めている。</p> <p>子どもの権利条約や、人権差別撤廃条約などの人権条約も採択されてきた。</p> <p>女子差別撤廃条約や障害者権利条約の採択をきっかけに日本でも</p>	<p>人権保障の広がり</p> <p>・ 国際人権規約 ・ 人権差別撤廃条約 ・ 子どもの権利条約</p> <p>20年代以降…女子差別撤廃条約男子用機械検討法・男女雇用参画社会基本法、男女共同参画社会基本法→男女差別ポジティブ…アクション</p>

【画像 1】 まとめ

夏休み明けて大きく変更したところがある。それは、授業前半のホット・シーティングのところである。7月までは、哲人（4月から5月初頭にかけて先哲について「先哲選抜総選挙」実践⁷を通して学んでいる）の一人になりきって、質問を受ける形をとった。しか

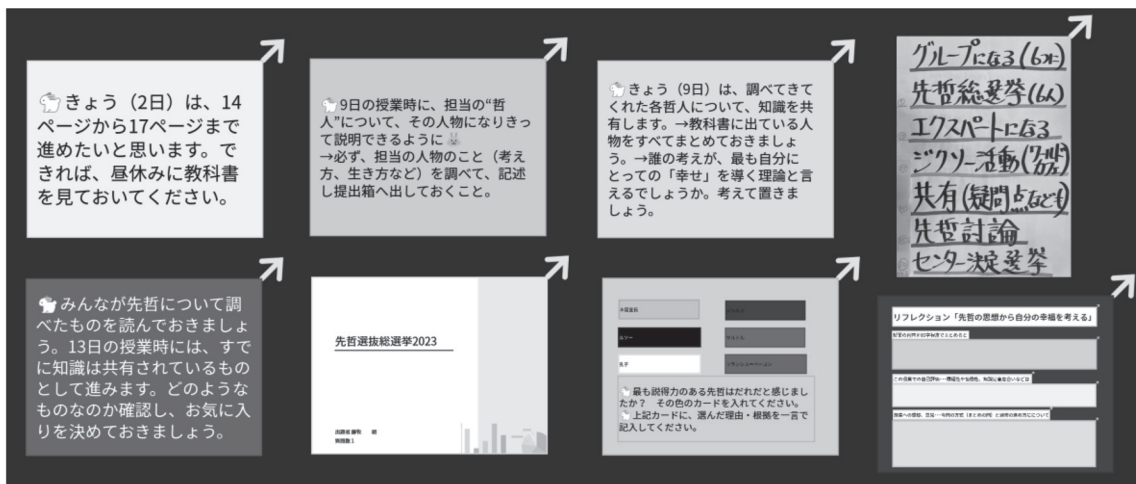
し、学習項目が政治から経済と進んでくると、今現在に社会で起こっていることに関して具体的にみんなで考えていく方法が生徒の関心を引くことができるものと感じられた。



【画像2】ホット・シーティング



【画像3】KP法とグループ学習



【画像4】「先哲選抜総選挙」

(3) 通常の授業実践（中期以降）

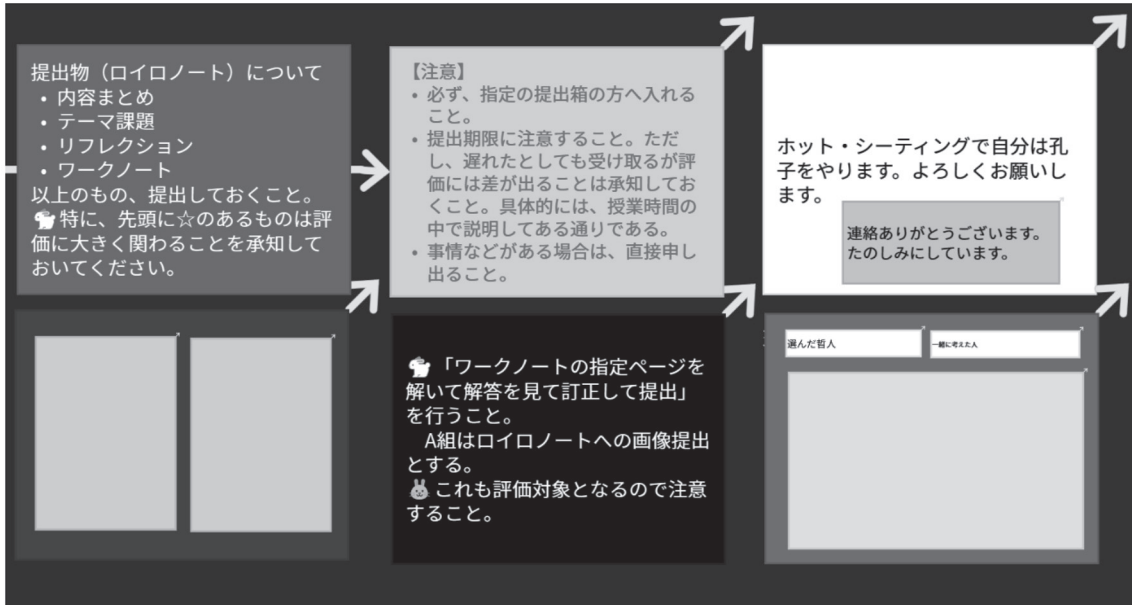
上記にあるような状況の中で、授業の前半時間の変更を行った（下記【授業の進め方】参照）。授業時間が、生徒の関心とリアルタイムな時事問題に関する議論ができる「生き活きとした時間」に変化した。しかし、生徒がのめり込む魅力ある時間となったために、授業時間の半分（20～25分程度）近くを占めることとなった。ここにおいて、教科書学習項目内容に関する学びについての生徒同士での学び合いは続ける必要がある。そこで、グループでの「問い出し」の時間は確保した上で、教員からの教科書内容の解説時間の効率を上げ、授業時間における教科書内容をまとめる時間は省くようにした。しかし、他のクラスと比較した試験結果（平均得点の差異）は授業形式の変化によって特に変化する

ことはなかった。

【授業の進め方】（画像9）

- ①「本日テーマ」の提案…提案者がきょう議論する一つの社会問題を提案する。
 - ・提案者が提案理由の説明と議論の時間設定を行う。
- ↓
- ②上のテーマについて議論（原則的に4人程度のグループで）→発表
 - ・ここも提案者がMCとなって進める。
- ↓
- ③きょう学ぶ項目について、教科書を読んでグループで「問い」をつくる。

- ロイロ・ノートに記述、提出 ↓
- ④生徒から出た「問い」に対する回答を中心に、きょうの内容の簡単な解説を実施。
- ⑤リフレクション＝本日の感想や意見など（ロイロ・ノートに表現→提出）



【画像5】進め方指示

<p>自分が「こうであってほしい」と思う出来事(特に自分好きな芸能人に結婚してほしいとか)について、ネットニュース等でその記事が出てもやっぱりどうだ！と観音みせずに、本当に事実なのかをじっくり吟味したい。</p> <p>123年10月4日 09:37</p>	<p>普段から色々な記事を見るが、その情報の信憑性などはいつも考えるようにしているからそれなりにあると思っている</p> <p>2023年10月4日 14:13</p>	<p>Twitterなどでの一個人の意見は信じないようにしています。昨日もTwitterを見ていて、あるYouTuberとある人が同一人物だと騒いでる人がいましたが、一個人の意見だと割り切って信じないようにしました。その点で、メディアリテラシーは身についている方かなと思います。ただ、影響力のある人の意見を鵜呑みにしてしまうことも多々あるので、それに關しては気をつけようと思います。</p> <p>2023年10月4日 14:15</p>	<p>う。インターネットで何か調べものをするときも、一つのサイトの情報だけを鵜呑みにするのではなく、複数のサイトを見て真偽を確かめるようにしている。また、ニュースを見るときも、自分の意見もふまえて理解を深めるようにしている。</p> <p>2023年10月4日 14:42</p>
<p>情報リテラシーは情報の信憑性をよく吟味することが重要だが、それ以上に自分の考え方を磨くことも大切だと思ふ。</p> <p>テレビニュースやネットニュースで様々なコメントを見たり、親や先生の意見を聞いたりすると、かなりぐに納得してしまったり流されてしまったりすることもある。多様な情報に対し柔軟で、思い込みが少ないというのは利点だと思うけど、どこか「全部正しい」といふ考え方があがる。当に正しいことを決めつけたくはないけど見極められようになりたい。</p> <p>123年10月4日 16:46</p>	<p>ネットの情報は疑ってかかることが多い。特にTwitterは怪しい情報がよく流れてくるため、疑いの目を持って見るのが自然とできています。しかし、テレビや新聞の情報はそのまま受け取ってしまう。テレビの内容に対して疑を投げかけたり、善言を呈していたりするのを見て、そういう受け取り方もあるのだなと感じることが多い。</p> <p>2023年10月4日 17:29</p>	<p>情報を受けるときにはすべてを真に受けるのではなく、聞き流すくらいの気持ちで受け取るといいと思っている。ただ、真に受けた方がいい場合もあるのかもしれないというところが懸念点だと感じている。</p> <p>2023年10月4日 21:33</p>	<p>ジャーナリズムの性加害が30年にもわたって隠ぺいされてきたように、マスメディアは時に偏った内容の情報を発信し、拡散されたくない事実を報道しないことがある。表向きに報道されていることばかりに流されるのではなく(今までの自分)、これからは少し捉え方を変えて読む意識を常に持ちたい。</p> <p>2023年10月4日 21:40</p>
<p>私自身、そんなに情報リテラシーがある人間ではありません。結構言ひやすいし、知らない間にフェイクニュースの拡散に協力してしまっているかもしれません。しかし、自覚があるだけまだマシだと思っています。もっと情報は疑ってかかろうと思っています。</p> <p>123年10月4日 16:46</p>	<p>私は、インターネット等を利用するときに自分の情報を最小限しか出さないように気をつけています。情報を発信するときは、写真を出さないのはもちろん、年齢や性別、生活圏などが分からないように、何度も確認するようにしています。また、セキュリティソフトをいれたりパスワードを強化したりして、急なサイトにアクセスしないようにしています。自分でも、怪しいサイトに飛ぶことがないように注意しています。</p> <p>2023年10月4日 17:29</p>	<p>【私のメディアリテラシー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 常に批判的に考えられているので、悪質なサイトにはアクセスしなくなっている ● そこからくるデマ情報などはそもそも信じる機会がない ● 気になった話題に関しては、たくさん記事を読んでいる ● 一つの記事だけでなく多様な見方を見つけれようという心がある ● コメント欄を見ることも多いので、その分誰の中の人のいろいろな考え方を理解していると思う ● 情報発信は基本行っていないので発生源になることは今のところないが、流れてくる出どころ不明の情報に関しては興味がない ● 情報発信は基本行っていないので発生源になることは今のところないが、流れてくる出どころ不明の情報に関しては興味がない <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 一つの情報だけでその情報を信用するのではなく、公式サイトなどで個人で確かめるようにしているので偽情報に關してはあまり問題がないと思う <p>2023年10月4日 21:33</p>	<p>私にとってのメディアリテラシー（情報リテラシー）は、情報を自らの知識を元に取捨選択して、必要な情報を手に入れることであって、それと同時に、ネット上に載っている情報をすべて疑いながら見て、その中で、複数個似たような情報があれば、信じる価値ありと判断し、自分の知識として蓄積したり、調査結果として利用したりする</p> <p>2023年10月4日 21:40</p>

【画像6】意見・感想①「メディア・リテラシー」

(4) 哲人が「恋愛を考える」

この授業は、生徒ひとり一人が、今年度初期（4月～5月前半）「公共のとびら」で学んだ先哲のうちから一人を選びその先哲になり、恋愛をする、恋愛論を語るという形の授業である。

このテーマは、15歳16歳という年齢の生徒たちには関心が高く、またこれからの人生を考えると時間をとる価値のあるものである。そこで、ただ、自分の感

覚で意見を出し合っても自分自身の思考が深まることも広がることもないので、思考の先輩である過去の哲学者（先哲）の考えをもって考えを交換及び共有するという形をとった。このことがこれからの人生にどれだけ影響を与えるかは明確ではないが、生徒たちの言葉（画像7）から、生徒の感じ方・考え方は広がったものと捉えられる。

<p>ヤスバース</p> <p>振られても自己の有限性を自覚し、超越者の存在を感じ、前向きに生き方を成立させるため、合理的解決をする。</p>	<p>選んだ哲人 キルケゴール</p> <p>美的実存（享楽を求める） ↓ 倫理実存（倫理的義務に生きる） ↓ 宗教実存（信仰による主体性回復）</p> <p>このように、挫折や絶望から回復して主体性を回復するためには、このような道をたどるため、真の自分を愛してくれる人などいるはずもない</p>	<p>選んだ哲人 フーコー</p> <p>人間は自らを理性的だと思わせる ⇒自分が相手の上に立っていると思いつむ ⇒フーコーは相手の下手に出て機嫌を取りに行く</p>
<p>選んだ哲人 アーレント</p> <p>労働、仕事、活動の3個の中で人と人との間で言葉を通して行われる、言論や共同の行為である活動が一番大事と考えたため恋愛も人と人との間で言葉を通して行われる、言論や共同の行為である活動であるから大事だと考える。</p>	<p>選んだ哲人 サルトル</p> <p>人間が自由に(恋愛する対象を)選択することは、その選んだ人に価値づけをすることであり、全人類にひとつの人物像を創り上げることであり、相手も同じくそうである。また、自分が選択した全責任を受けなければならない。だから、恋愛をする際は自分がその人物像を本当に目指しているのか、選択の全責任を受けられるのか、などといったことを良く考え、慎重にしておく必要があると私は考える。</p>	<p>選んだ哲人 マザーテレサ</p> <p>マザーテレサは「愛されていないと感じることは、とても恐ろしい病気です。」と人で彼氏に愛してもらえないと激怒してしまいたい人だと考えられる。マリア型の恋愛をしている人である。この気持ちは私も共感できる！！ 彼女にとっての最も大きな苦しみは「孤独、愛されていないと感じること」であるから、いつも彼氏と一緒にいると考えられる。デートをしたら、お化け屋敷だと思う。その理由は、お化け屋敷では2人の距離が結構近づく場所だと思うので、遊びそうである。</p>

【画像7】意見・感想②「恋愛について考える」

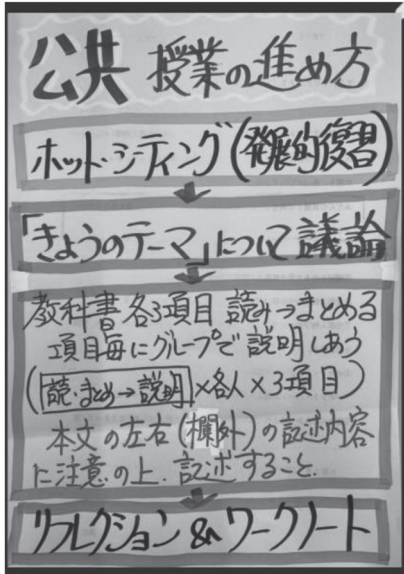
(5) 5人の経済思想から考える現在の『経済政策』

教科書にゼミナール「資本主義の歴史と経済思想」という項目があり、そこに、18世紀「資本主義の発展」アダム・スミス、19世紀「社会主義」マルクス、20世紀「修正資本主義」ケインズ、「新自由主義」フリードマンがまとめられている。ここで終わりとする

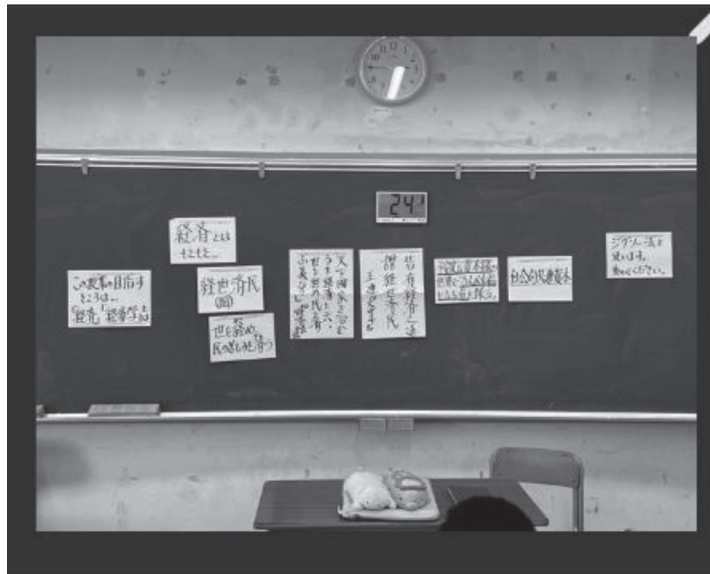
と、自由競争による優勝劣敗が正義であるかのような印象を強くもたれる傾向がある。そこにその直前の項目「市場経済のしくみ」の欄外で言及されている「社会的共通資本」を提唱された宇沢弘文氏の考え方を加えて「公共的な」考えにも思いが向かうように努めた。その結果を示すこの授業後の感想を以下に示す。

<p>宇沢弘文の本の内容は親しみのない経済の話であることもあるが、かなり難しい内容であったが納得もできる内容であり興味深かった。だからとえ難しい内容でも中身はおもしろいかもしいないのでこれから色々な本に挑戦してみたい。</p> <p>023年12月4日 19:11</p>	<p>った。 ②宇沢さんの経済理論はけっこう面白かった</p> <p>2023年12月4日 19:15</p>	<p>量取引など行われているのか、そしてなぜ排出量を削減しようとしている国が、していない国に対して、排出量の取り決めに積極的に行えなかったばかりに損をしてしまうのか不思議に思いました。</p> <p>2023年12月4日 20:10</p>
<p>①経済学は経済の仕組みを学ぶものだが必ずしもそれが人々の生活を良くするとは限らない ②小泉純一郎内閣は支持率が高いことで有名だと思ってたから批判的な意見を聞いて少し意外だと思った。</p> <p>023年12月4日 21:06</p>	<p>宇沢弘文の考え方に触れて、世を治めるやり方として、人間に焦点を当てるのが重要なのだと考えた。 授業後半のジグソー法では、排出量取引の非倫理性を担当して、各国の排出量をはじめに決める際に、排出量の対策をしている国が得をするようになっていくと気付かされた。これは、現在の環境問題の先進国と発展途上国の主張の食い違いにも言えることなのではないかと思った。</p> <p>2023年12月4日 21:10</p>	<p>経済は語源として社会に生きる人々を救うものであるはずなのに、今回、宇澤先生の文を読み、アメリカが中心として波及させているフリードマンの市場原理主義による格差拡大や、お金を中心として、弱者側を切り捨てるような社会経済の矛盾がわかりました。</p> <p>2023年12月5日 07:26</p>
<p>今回の授業のように生徒同士で（市場原理主義）のような難しい内容について話し合うのは久しぶりだったため、とても新鮮味があった。ただ、資料に知らない単語が多く載っていたため、少</p>	<p>①経済も歴史にともなって考え方が変わってきているのだとわかった。また、経済はただ数字を見るものというわけではなく、考え方も発展において大切な要素だと気づいた。 ②久しぶりに藤牧先生の授業を受けて嬉しかった。書物を読んで要約するだけでなく、自分の意見</p>	<p>日本に宇沢弘文さんのような、優れた経済学者がいたことが誇らしいと思いました。社会的共通資本についてや、宇沢さんが親近感を抱いており、「日本のケインズ」と言われる石橋湛山の考えなどがわかりました。私も、</p>

【画像8】意見・感想③「経済思想と経済政策について考える」



【画像9】授業の進め方



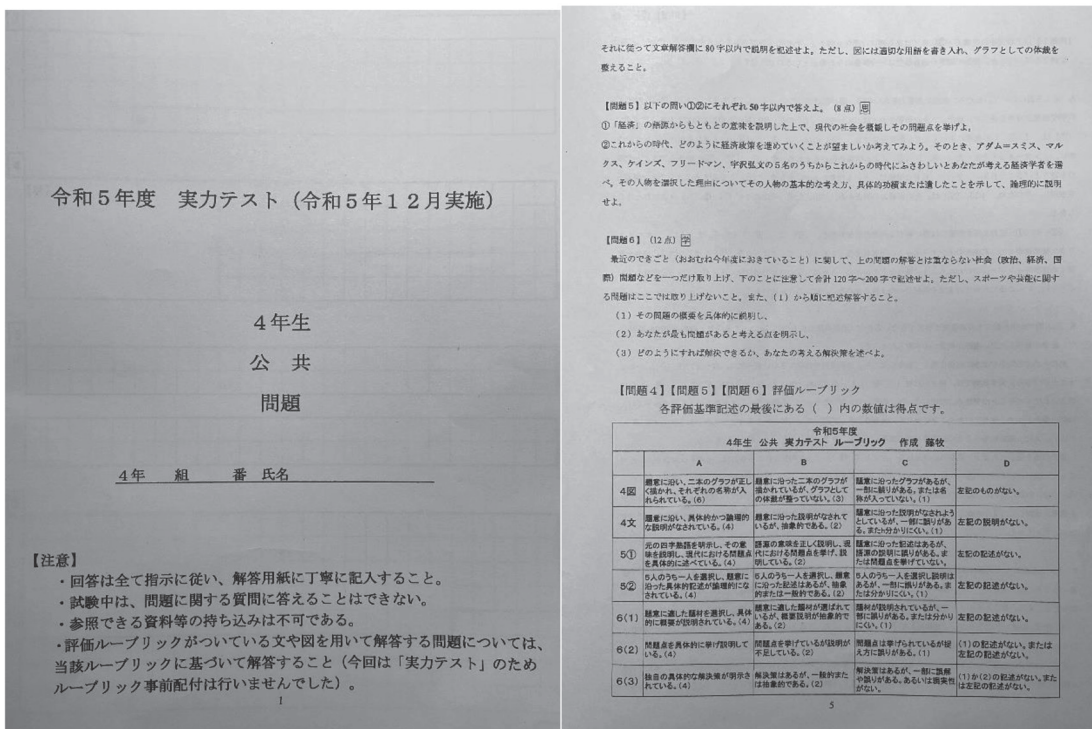
【画像10】「経済とは」KP

(6) 定期考査と評価 (画像資料11 参照)

定期試験等の問題は、全問を文で答える形式(50字、100字、150字、200字など)とすることが通常であり、それにループリックをつけることを原則としてきた。しかし、今年度の「公共」は、各学年4クラスある内の1クラスのみを担当(3名で担当)であり、定期試験の問題作成は他の教員が行っていた。その中で12月にあった試験のみ全問題作成を行った。他のクラスとの整合性を考え、配点の半分は知識を問う短答式の問題とし、後半部分には「知識を問うもの」「思考力

を問うもの」「学びへ向かう意欲を問うもの」の三つに分類出題した。もちろんそのすべてが、表現力を観る問題となっている。その一部をここに画像として掲載する。

試験問題作成においては、問題自体よりもループリック作成の方に時間がかかった。それは、このループリックが試験の採点規準となるとともに、受験する生徒の学びの方向性、すなわちここにおける学び方を示すはたらきをするものだからである。



【画像11】テスト例① (表紙と問題・ループリックの一部)

5. 考察（まとめ）

公共は、これから生きる日本人たちにとって、非常に大切な科目である。この重要な科目が大学受験など目の前にある必要不必要に動かされることなく、一人残らず学ぶことができるようにしていくことが肝要である。そのために、学ぶ意義を感じるようにするとともに、「学ぶたのしさ」とそれぞれ個々人にあった「学び方」「学習方略」を身につけられるような「学びの場」を創っていくことが私たち教員に課せられていると考えられる。

このことは、この公共に限らず、全ての教科・科目に言えることかもしれない。そのための学びの場として、学校、特に授業時間の利用の仕方を考えかつ工夫実践し、努めて続けていかなければならないものである。

【注記】

上記は、2023年12月の状況（年度途中）で記述されていることをご了解いただきたい。

文中の「現勤務校」とは、関東近県にある県立の某中等教育学校のことを指している。

【参考文献】

- ・ 石井英真『今求められる学力と学びとは』（日本標準ブックレット）2015
- ・ 石井英真『授業が変わる授業評価深化論』（図書文化）2023
- ・ 市川伸一『教えて考えさせる授業』の挑戦（明治図書）2013
- ・ 宇沢弘文『宇沢弘文の経済学：社会的共通資本の論理』（日本経済新聞出版社）2015
- ・ 河口竜行ら編著『シリーズ学びとピーニング①いま授業とは、学校とは何かを考える』（りょうゆう出版）2022
- ・ 川嶋直＋皆川雅樹『アクティブラーニングに導くKP法実践』（みくに出版）2016
- ・ 小林和雄『真正の深い学びへの誘い』（晃洋書房）2019
- ・ 佐藤浩章監訳『大学教員のためのルーブリック評価入門』（玉川大学出版部）2014
- ・ 佐藤浩章編著『高校教員のための探究学習入門』（ナカニシヤ出版）2021
- ・ ダン・ロスステイン、ルース・サンタナ著、吉田新一郎訳『たった一つを変えるだけ』（新評論）2015
- ・ 奈須正裕『「資質・能力」と学びのメカニズム』（東洋館出版社）2017
- ・ 西岡加名恵、石井英真『教科の「深い学び」を実現するパフォーマンス評価』（日本標準）2019
- ・ 藤牧朗『“深い学び”を促す「アクティブラーニング型授業」と評価を考える～今年度の中等教育学校における実践を中心に～』（法政大学教職課程年報 Vol.20）2022
- ・ 藤牧朗『高校1年物理基礎指導を通し、中高一貫校で学び意義を考える～改訂された学習指導要領の理念を活かした学習指導～』（法政大学教職課程年報 Vol.21）2023
- ・ 藤牧朗『演劇的手法やKP法、グループ学習を交え、授業の中に社会の場を作る』（Career Guidance Vol.414 リクルート）
- ・ 藤牧朗『学び直しゼロ！「3学期の授業」のポイント〔高等学校〕「真正の学び」を実現する「獲得型」の学び』（社会科教育 No.741. 明治図書）
- ・ 藤牧朗『〔公民〕時空を超え、効率的に、深く学ぶ、愉しく学ぶ！』（社会科教育 No.760 明治図書）
- ・ 藤牧朗『〔歴史的分野〕“生きた学び”へ生き活きた「学びの場」を創るICT活用法』（社会科教育 No.767 明治図書）
- ・ 松尾和明『外国につながる児童生徒の学習支援—学習方略に焦点をあてて—』（法政大学教職課程年報 Vol.20）2022
- ・ 森朋子『学習科学入門—「学び」を学ぶ』（放送大学面接授業配布資料）2013
- ・ 渡部淳『教師 学びの演出家』（旬報社）2007
- ・ 渡部淳＋獲得型教育研究会『学びを変えるドラマの手法』（旬報社）2010
- ・ 渡部淳＋獲得型教育研究会『教育プレゼンテーション』（旬報社）2015
- ・ 渡部淳＋獲得型教育研究会『AL型授業が活性化する参加型アクティビティ入門』（学事出版）2018
- ・ 渡部淳『アクティブ・ラーニングとは何か』（岩波新書）2020
- ・ 『高等学校学習指導要領』（文部科学省）2018